

人とひとで育む ぬくもりの郷「ほんごう」

— 連携・協働で地区の活力を —

本郷公民館

1 地区の概要

本郷地区は、福井市街地より西に13kmに位置し、東西の広い地域に18の集落が点在している。丹生山地の最北端部分にあたり、集落と農地は南北にクサビ状の形をしている。



【七瀬川の清流】

古代から国見岳の麓を源流として、七つの川が注ぎ込み七つの瀬をなすことから名付けられた「七瀬川」が、村を潤し流れている。

また、地区のあちこちに「名水」と呼ばれる清水や美しい滝が存在するなど、水に恵まれた地区である。

年々過疎化が進んできていたが、平成14年に市街地まで15分の「西郷トンネル」が開通、平成17年には上郷・下郷両小学校の合併による本郷小学校が開校、住宅団地「ネオポリス本郷」の誕生などが続き、人口減少に歯止めがかかった。さらに、温泉付き身障者施設「七瀬の郷」の創設、いちじくなどの特産品づくり、乗馬体験のできる「ほんごう馬の里」、農業体験のできる「あぐりパークほんごう」など、新しい名物や名所ができ、脚光を浴びている。

現在は、人口1,200人余りで、増加傾向にある。

2 郷土学習で活力を

— 「郷（さと）の探歩会」の活動—

本郷地区には、「地区史」に類するものがなく、歴史調査などは殆どなされていない。しかし、伝説や遺跡などは地区内に多く存在している。これらについて詳しく学習・調査することで、住んでいる「ふるさと」を知り、住民の理解と関心を高めようと、「郷の探歩会」という自主学習グループが発足した。

自分たちで「探し歩く」ことを目指して、活動を進め、成果を毎年、冊子やパンフレット等にまとめている。それらは、地区の貴重な資料となっている。

① 「ふるさとを訪ねて」(平成24年)

お宝マップとして、遺跡・遺物や伝説が残る祠等に新しくできた名所等を加え、地図上にまとめた。

② 「本郷ふるさとの名水」(平成25年)

本郷を潤す豊かな水に関わる川・名水・滝をパンフレットにまとめた。

③ 「本郷 郷のカルタ」(平成26年)

「ふるさと自慢 郷のカルタ解説書」



【郷のカルタ】

地域の歴史や特色を表現した「カルタ」と解説書を、会員の手づくりで作成した。小学校では、子どもの地域理解のために、授業等で利用されている。

④ 「写真で見るふるさと」(平成27年)

「本郷幼小学校創立10年」「戦後70年」の記念として、歴史写真集として発刊した。地区住民よりの貴重な写真の提供を受け、充実した内容となった。

⑤ 「郷の家紋」(平成28年)

本郷は歴史的に未知の部分が多い地区であり、その隠れた歴史を探るため、地区全家庭の家紋調査を行い、冊子にまとめた。

さらに、史跡や地区の案内看板の設置も進めていて、本郷公民館をはじめ、各種団体との連携・協働の下に、地区に多くの誇るべきものがあることを、住民や子どもたちに強く意識づけることができた。

3 「龍興寺史跡」の活用で活力を

龍興寺は、1430年頃、安居代官藤原清長により創建され、一向一揆の放火のため廃寺となるまで約140～

150年間繁栄した大寺であった。曹洞宗の寺として八幡町南東に建立されて、最盛期には七堂伽藍を誇った名刹といわれた。寺跡には古井戸、礎石の数々、崩れた十数基の五輪塔、多くの石仏がその面影をとどめている。



【龍興寺史跡での記念植樹】

この貴重な龍興寺史跡を中心とした事業を進めている。平成27年度は、7月に、「ふるさと

の森と歴史教室」として、「ふるさとの里山を知ろう&環境パトロール」を行い、沿道の植樹・ため池の魚のえさやり・龍興寺史跡探訪などを実施した。また、11月には、「山の恵を楽しもう」として、龍興寺史跡を会場に、練り炭体験・遊歩道散策・ジビエ料理体験を行った。子どもから大人まで、約50名が参加して、自然環境保全と史跡探訪を満喫した。

このような活動が評価され、平成26年度に、「環境保全活動市長表彰」を受けている。

4 「七瀬すこっぱーず」の活躍で地域おこし

「七瀬すこっぱーず」は、団塊の世代が「何か楽しめることを」と、平成19年に結成された。公民館を活動の拠点として、福祉施設訪問や地区内外のイベント等でスコップ三味線を披露している。本郷小学校入口近くに、「すこっぱ三味線の郷」のモニュメントがあり、世界大会で優勝するなど、地区の活力のシンボルとなっている。

自らが楽しむだけでなく、人々に喜びを与えられることを糧に、ボランティアにも活動を広げ、学校及び「七瀬の郷」の草刈り、独居高齢者家庭の雪かきなどを行い、喜ばれている。

今年度、結成10周年を迎え、今後のさらなる活動の強化を目指している。

5 少年の健全育成のために

緑豊かな地域の中で、自然を活用したものづくりや本郷ならではの体験学習を通じて少年の健全育成を目指す取組を進めている。

(1) 国見岳キャンプ

公民館の少年教育事業とみどりの少年団の共催事業として、夏休みを利用して実施している。募集対象は、小学3年生から高校生までであるが、小学生の参加がほとんどである。平成27年度は、児童17名・保護者12名とボランティアが参加し、キャンプファイヤーやバーベキューを楽しんだ。今年度は中学生4名の参加が得られるなどの広がりが見られ、子どもの人間関係づくりに成果をあげてきている。

(2) まゆクラフトづくり



【まゆでサルのとづくり】

本郷地区には、北陸で唯一、しかも最高級品質の繭玉を出荷している「養蚕農家」がある。その繭を利用した「干支づくり」を公民館の家庭教育事業として、毎年11月に実施している。はじめは、小学生を対象に行われていたが、一般の方からの要望もあり3年前からは子どもから高齢者までが参加するようになった。地元出身の講師の指導で、作業に2時間程度要するが、参加者全員が熱中して取り組み、毎回素晴らしい作品が出来上がっている。

6 終わりに

少子高齢化が進む中で、地区の活性化のための事業を各団体がそれぞれの立場で進めてきた。それらの事業が個々に行われるのではなく、公民館を中心として、各団体や住民の連携・協働で行われてきたことが、大きな成果を得られた要因であると考えられる。

今後も、自治会・各団体との連携をさらに密にし、地区内外に「本郷のよさ」をアピールできる事業を進めながら、「住みよいふるさとづくり」とさらなる活性化を目指していきたい。

これまで、あまり知られていなかった地区の歴史や史跡などに目を向け、新しいことにも挑戦しながら、地区をよくしていこうとする住民の皆さんの強い意欲を感じました。

また、それらの活動をまとめ、支えている公民館の活動が、地区のさらなる発展の原動力になっていくことと思います。